

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0971300090		
法人名	社会福祉法人悠々の郷		
事業所名	グループホーム生きいきの里		
所在地	栃木県那須塩原市塩原814番地 (電話) 0287-32-3381		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月14日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤7人(うち兼務1人), 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光熱水費—19,500円</li> <li>・共益費—7,500円</li> <li>・個人的外出の交通費—60円/1km</li> <li>・理美容代、おむつ代、嗜好品の購入—実費</li> </ul>
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食 300 円	昼食 350 円	
	夕食 400 円	おやつ 150 円	
	または1日当たり	円	

(4) 利用者の概要(平成20年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 78.9 歳	最低 67 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	栃木県医師会温泉研究所附属塩原病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「利用者の自分らしさを大切にして、地域の中で家庭的な雰囲気のもと、居心地のよい共同生活が送れるよう、ご家族とともにお手伝いさせていただきます」を理念に掲げ、入居者が自分のペースで安心して暮らしていただけること、それぞれが役割を持って自分らしく生活できることを目標に日々努力しているホームである。毎日の暮らしの中で、入居者はケアを受けるだけの存在ではなく、地域の風習や郷土料理を職員に伝えたり、新入職員に家事や調理を教える役割も担い、職員からは「お姑さん」のようだと敬意を払われている。職員は個別入浴や夜勤の時に、入居者一人ひとりの話を聞き、入居者への理解に努めている。家族がホームを訪れる機会を多く作るために毎月行事を催し、その日に合わせて開催する運営推進会議への参加を呼びかけて、「家族とともに」の理念の実現を目指している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、理念の地域への浸透、本人の意向把握、本人・家族の意見の反映、介護計画の見直し手順、金銭管理、医療との連携、家族への情報提供、継続的な研修機会、市町村との関わりなどが改善項目であった。この結果を受け、家族への情報提供や運営推進会議を通じた地域への広報用に「グループホームだより」を発行し、「サービス担当者会議の要点」の書式を作成するなどの改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は職員全員が関わるのではなく、主に管理者の判断において作成されている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議になるべく多くの入居者と家族に参加してもらうための工夫として、会議で提案された意見を受けて、ホームで実施する行事と同じ日に開催することにした。市役所職員からは「堅苦しい雰囲気だと意見が出にくいので、会議を家族とホームの意見交換の場と捉えてざっくばらんに話してもらうように」との助言もあった。家族からはホームや居室の清掃・衛生、暖房時間、リハビリの実施などの要望もあり、逐次改善に結びつけている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情や要望を受け付けている。毎月の行事や交流会、運営推進会議など、より多くの家族が参加できる機会を作って、その際に要望などを伝えてもらうようにしているが、運営推進会議への入居者・家族の出席率の向上が課題となっている。ホームに伝えられる意見や要望・苦情はあまり多くはないものの、出された内容はその都度運営に反映させている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月、階下のデイサービスセンターと合同で地域住民を招いて交流会を催している。交流会では近くの保育園児の歌やお遊戯の披露があったり、バレンタインのチョコ作り、絵はがき作りなど毎回皆で一緒に楽しめるプログラムを工夫している。自治会に加入しているが、会議や活動への参加、回覧板の回覧などは今のところない。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はグループホームとデイサービスセンターの管理者を兼ねていて、地域に密着した事業所として活動をしている。「利用者の自分らしさ」「地域の中で家庭的に」「居心地のよい共同生活」「家族とともに」などのキーワードの入った理念を職員全員で話し合っ作り、入り口に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員ミーティングでは「その人らしさ」がどの入居者も実現できているかを常に話し合い、統一化を図っている。家族の協力を得るために毎月の利用料金支払いには直接ホームに出向いてもらうことや通院介助をお願いしている。また職員は地域の行事などを話題に出したり行事食とともに作ったりして、地域との関係を念頭に置いた支援を心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月、階下のデイサービスセンターと合同で交流会を開催している。交流会では近くの保育園児の歌やお遊戯の披露があったり、バレンタインのチョコ作り、絵はがき作りなど毎回楽しめるプログラムを工夫している。自治会にも加入しているが、会議や活動への参加、回覧板の回覧などは今のところない。	○	自治会活動への参加も検討したが、清掃活動は早朝であり対応が難しいので断念した経緯がある。運営推進会議には自治会の代表者も加わってもらっているので、今後も地域との日常的な関係作りを進めていくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を受けて、家族への情報提供や運営推進会議を通じた地域への広報のために「グループホームだより」を定期的に発行するようになった。また、「サービス担当者会議の要点」の書式を作成するなど、何点か改善に取り組んでいる。今回の自己評価は職員全員が関わるのではなく、主に管理者の判断において作成されている。	○	評価の機会をより活かしていくためにも自己評価を行う際には、管理者のみではなく、全職員にも関わってもらうような取り組みを期待したい。

グループホーム生きいきの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議になるべく多くの入居者と家族に参加してもらうための工夫として、会議で提案された意見を受けてホームで実施する行事と同じ日に開催することにした。市役所職員からは「堅苦しい雰囲気だと意見が出にくいので、会議を家族とホームの意見交換の場と捉えてざっくばらんに話してもらうように」との助言もあった。ホームや居室の清掃・衛生、暖房時間、リハビリの実施などの要望もあり、逐次改善に結びつけている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加してもらう以外は市との積極的な関わりはないが、地域包括支援センターでは交流会への地域の参加者の送迎を行えることを提案している。この程、市の仲介で「地域密着型サービス事業者連絡協議会」が発足した。そのメンバーとして積極的に参加したいとしている。	○	市では、ホームの運営や運営推進会議が軌道に乗ってきたので会議への参加回数を減らしたいとしている。市との接触が減る分、「地域密着型サービス事業者連絡協議会」やその他の情報交換の場を確保するよう、ホームとしての努力も期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	生活の様子を知らせるために「グループホームだより」を運営推進会議開催に合わせて発行しており、希望する家族にも渡している。利用料金の請求を電話で通知し、支払いは特別な事情がない限りホームへ直接持ってきてもらい、その時に入居者の様子を報告している。少しでも変化があったときは電話で報告している。毎月の行事や交流会には、家族が参加できるようお誘いをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情受付窓口担当者と行政機関その他の苦情受付制度を掲載している。また、玄関に苦情受付ボックスを置いている。運営推進会議ではなるべく多くの入居者や家族に参加してもらい、意見を述べてもらう工夫をしているが、家族の出席率の向上が課題となっている。出される要望や苦情はあまり多くはないが、その都度改善するよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者に責任を持って関わられるよう、職員を全て常勤雇いとしている。なるべく異動がないようにするとともに、職員の仕事上の悩みに耳を傾け休暇の取り方に配慮しているが、最近、職員の離職が続いている。馴染みの関係ができあがっている職員の退職の際には、「休んでいる」ことにして、入居者に急なダメージを与えないよう、「時」が解決してくれるのを待つ姿勢でいる。		

グループホーム生きいきの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では特別養護老人ホームを会場にして毎月研修を実施しており、全職員に参加を勧めている。研修内容は感染症対策、介護技術、救命救急講習などである。職員は各自の事情に応じて参加し、参加できなかった職員は仕事の傍ら、参加者から内容を聞いている。職員一人ひとりの研修計画は立てられていない。必要に応じて県などが実施する外部研修に派遣している。	○	職員には、学校や実習先の事業所とは異なるグループホーム独特の認知症高齢者ケアの方法をもっと学びたいとの意向がある。ホーム内部で学習会が実施できないか検討を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が個人的にほかのグループホームへ見学に行くことはあるが、事業所同士で交流の機会を作ることはない。この程、市の仲介で「地域密着型サービス事業者連絡協議会」が出来たので、その機会に交流を持ちたいと考えている。	○	今後は職員がほかの事業所の職員と交流し、ケアの情報の共有や悩みの解消につながる話し合いをするような場として連絡協議会を活用していくことを期待したい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に1、2回の見学をした上で入居し、使い慣れた物品を持ち込んだり、家族にこまめに来てもらい、職員の声かけを密にしてホームに慣れてもらう配慮をしている。入居者一人ひとりに担当の職員を割り当て、馴染みの関係ができるようにもしている。担当の居宅ケアマネジャーから入居者の情報を得て対応をしているが、入居者がなかなか馴染めず、また、情報が十分でなかったために行動障害への対応が困難で退居になった例がある。	○	事前に入居者の状況を把握しておくことが重要であり、担当の居宅ケアマネジャーと情報交換を密接にしたり、必要であれば家庭訪問や入居前の施設・病院等を訪問して、事前により多くの情報を得ておくことも期待したい。また、何日かの体験入居ができないかの検討を進めることにも期待したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は地域の行事の話題を出して、入居者の経験を引き出したり、郷土の風習や行事食、地域独特の料理を教えるなどしている。「入居者のおかげで料理ができるようになった。入居者はお姑さんみたい」という職員の感想には、親しみと敬意がこもっていた。また、夜勤の職員をいたわって優しい声かけをしてくれる入居者がいることも職員の励みとなっている。		

グループホーム生きいきの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの食の好みや生活ペースを把握し、意向にそった対応を心がけている。特異な行動を示す入居者については、行動の背景や理由、対応方法の情報を交換しながら、職員全員で検討している。職員は入浴介助、夜勤の時など、入居者一人ひとりと向き合うことのできる時間帯に、ゆっくり話を聞いて意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居宅のケアマネジャーからの情報や本人、家族との話し合いで得られた情報を「人生表」というホーム独自のアセスメントシートにまとめ、担当職員が介護計画の原案を作って、計画作成担当者に相談し、ホームでのサービス計画を作成している。毎月のミーティングはケース会議を兼ねており、入居者一人ひとりについての情報共有と対応方法の検討の機会となっている。	○	家族からの要望を受けて、同じ法人が運営する階下のデイサービスセンターのリハビリに通う入居者がいるが、ホームでは家族の意向の把握が十分ではないとの認識がある。今後更に家族の意見を取り入れた介護計画の充実を図っていくことにも期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は初期を除き1年に1回は見直しをしている。毎月のケース会議で職員は担当入居者の様子や変化を報告し、次の介護計画作成につなげているが、状態に急変があったときなどは介護計画の見直しをしている。最近では、常時酸素吸入が必要になった入居者について、医師の意見や家族の意向、職員の意見をもとに計画の見直しを行った事例がある。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、希望に応じて事業所の移送サービスにより通院、外出への柔軟な支援をしている。外出機会の少ない入居者には、職員の通院介助の時に楽しみごとを組み入れるような工夫もしている。入居者・家族の希望に応じて、階下のデイサービスセンターのレクリエーションに参加し、リハビリの機会を設けたりもしている。		

グループホーム生きいきの里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医や事業所の協力病院で受診することができるように支援している。通院介助は原則家族としているが、不可能な場合は職員が通院・受診の支援をしている。受診後の受診結果の報告は口頭である。	○	家族と職員は受診時の情報伝達や受診結果の報告を口頭でしている。情報を共有し、ケアに活かすためにも書面でのやり取り等の確実な情報伝達の工夫が望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合や終末期はホームでの介護は困難との運営方針があり、同法人の特別養護老人ホームを紹介して転居に至った事例がある。家族や一部の入居者とは重度化した場合の方向性を決めている。	○	事業所の方針としては、重度化や終末期には退居してもらうことにしているが、入居の段階でこの方針を十分に説明し、納得・同意を得ておくことが期待される。本人や家族の意向を捉え、事業所のできる最大の支援方法を示して、入居者や家族が安心してサービスを利用できるよう、常に話し合っていく姿勢を持ち続けていくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員の入居者への声かけ、言葉づかいは穏やかである。ホーム玄関近くと居室近くにある2ヶ所のトイレは以前の外部評価後カーテンを二重にしたが、羞恥心やプライバシーの確保は難しい。事務スペースは厨房、食堂の一角が当てられているので、職員は記録等の持ち出しや取り扱いには気を配っている。	○	職員の認知症の入居者へのケアは尊厳を大切に接しているが、トイレはハード面での困難がある。自分から不満や苦情を言うことの少ない入居者一人ひとりのプライバシーが保てるような取り組みを今後も期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食堂や居間のこたつスペースでテレビを見る人、自室でテレビを見る人、エレベーターホールの喫煙スペースで煙草を吸う人、職員と話をしている人など、ホームにはゆったりとした時が流れていた。天候のよい時は職員と昼食の材料の買い物や散歩に外出する入居者もいる。日により食事を自室で摂る入居者もあり、入居者のペースや希望に沿った支援をしている。		

グループホーム生きいきの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>メニューはその日に決めて入居者と一緒に行き、下ごしらえ、配膳、下膳、食器拭きなど入居者の意思を第一にできることを一緒に行っている。食事中、職員は献立や季節の野菜についても話題にして「食」への関心を深めていた。希望で自室で食事を摂る入居者もいる。階下のデイサービスセンターと合同での昼食バイキング（寿司、てんぷら、煮物、デザート他）は入居者の楽しみとなっている。</p>		
23	57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>ホーム内にも浴槽はあるが、ほとんどの入居者は希望で階下のデイサービスセンターの温泉で週2～5回入浴を楽しんでいる。職員は入居者と1対1の入浴介助の際、普段はあまり話さない入居者から希望やいろいろ話を聞くことができる。車椅子の入居者も普通浴槽で入浴できるよう支援している。</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>家事の得意な入居者は食事の準備、片付け、掃除、洗濯物たたみを、縫物の得意な入居者は雑巾作り等を行っている。また、ゆでもち、しもつかれ、どんど焼きの団子づくり等、季節行事の食べ物について職員に伝授する場面もある。趣味のカラオケやギター、居酒屋での飲酒、外食等個別の希望にも対応している。階下のデイサービスセンターのレクリエーションに参加している入居者もいる。</p>		
25	61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>冬場の路面凍結する日を除き、近くを散歩したり、スーパーに買い物に出かけている。1人で外出していこうとする入居者には、職員と一緒に歩き、本人の希望に沿った支援をしている。個別の希望に応じて職員配置の許す限り移送サービスを利用して買い物や気晴らしのドライブにも出かけている。ただ、特別の外出は一部の入居者に偏りがちである。</p>	○	<p>職員はなるべく多くの入居者に外出の機会を作りたいと考えている。今後の取り組みの充実にも期待したい。</p>
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>事務室機能が食堂近辺にあり、居室には鍵はなく、ドアをオープンにしている居室が多いため、職員は入居者の状態を把握しやすい。外出していこうとする入居者へは無理に止めずに職員と一緒に歩いてくる。玄関、エレベーターの鍵も日中はかけていない。</p>		

グループホーム生きいきの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携して毎月避難訓練を行っている。宿直と夜勤の夜間2人体制を想定しての訓練も行っているが、地域の人への協力要請はしていない。	○	ホームが3階建ての2階にあるために、事業所では、緊急事態には地域の人々の協力が必要であることを認識している。運営推進会議に消防署から参加してもらうことも検討している。地域の自治会長、老人会長、民生委員などの協力を得て、地域の人と合同の避難訓練を実施することなどの検討にも期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉と魚は毎日メニューに取り入れている。季節の野菜を多く使い、炊きこみご飯や汁ものにするなど自然と食が進むような工夫をしている。カロリーに注意を要する入居者は食事を少なくして対応している。風呂上りには水分補給をし、便秘がちな入居者は牛乳を飲み、軽い体操をすることで改善を図っている。栄養摂取や健康状態についてデイサービスセンターの看護師に相談するケースもある。職員は摂取量が減った入居者を申し送りの記録から把握して気をつけている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の一段高い畳スペースの壁には、ひな祭りの飾り付けがされていた。クリスマスツリーや正月飾りなど、この壁を利用して入居者が季節を感じる事ができる工夫をしている。食堂の椅子・テーブル、畳スペースの掘りごたつ、廊下のソファ、エレベーターホールの喫煙所など入居者は好きな場所で過ごしている。トイレはカーテンの仕切なので音、臭いなどが漏れることが懸念される。廊下や食堂まわりに不用品が雑然と置かれているのが目に付いた。	○	共用空間が入居者にとって安心して居心地のよい場所になるよう、入居者、家族、運営推進会議のメンバー、外来者等の意見を参考にすることで、入居者の暮らしの場を整えていくことを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族の写真、植木鉢、敷物、テレビ、食器、好みの調味料、壁掛けなど馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごしている入居者の姿がある一方で、持ち込み物品の少ない居室もある。	○	持ち物が少ない場合でも、入居者の希望を確認しながらその人らしい居室づくりに取り組むことに期待したい。

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。